



## 総題 私たちの神

アドベンチスト聴覚しょうがい者友の会教材部

### 第7課

### 安息日の主

山地 宏 2012.2.11~2012.2.18

#### 1. はじめに

ヨハネによる福音書1章1節のはじめのところに、「初めに<sup>ことば</sup>言があった」という有名な<sup>ことば</sup>言葉が書かれています。このヨハネによる福音書1章1節のはじめのところを読むと、創世記1章1節に書いてある「はじめに、神は天と地とを創造された」という言葉を思い出します。

ヨハネによる福音書のつづきのところを読んでいくと、「すべてのものは、これによってできた」と書かれています。つまり「天と地とを創造された」神さまと同じように、「言」は「すべてのもの」を造られた神さまだということです。そして、ヨハネによる福音書のつづきのところをずっと読んでいくと、この「言」はイエスさまだということがわかります。

また、ヨハネによる福音書1章12節には「しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」と書かれています。これは、「言」であられるイエスさまは、私たち人間を罪から救ってくださるお方だということです。

このように、イエスさまは、天と地とを創造された創造主であり、私たち罪人を罪から救ってくださる<sup>あがな</sup>贖い主です。

今週のテーマは「安息日の主」です。言うまでもなく「安息日の主」はイエスさまです。旧約聖書の十戒の第4条には安息日についての<sup>いまし</sup>戒めが書かれています。十戒の第4条に書かれている安息日についての戒めを読むと、安息日の戒めを与えられたイエスさまが「創造主」であり「贖い主」であるということがわかります。「創造主」であり「贖い主」であられるイエスさまが「安息日の主」であるということを今週は学びます。

#### 2. 創世記における安息日 2月12日（日曜日）

創世記2章1節~3節を読むと、神さまはこの世界を造る作業を終わった次の日に休まれたことが書かれています。これが安息日の始まりです。この世界を造る作業の1番最後に、神さまは安息日を創造されたと言えるかも知れません。

2節と3節で目立つ言葉は「第七の日」という言葉です。わずか2節の中に3回も出てきます。これは、ほかの日ではなくて「第七の日」ということが特別に大切なことだ、ということをおぼわしています。なぜなら、神さまはこの「第七の日」を「祝福」して「聖別」されたからです。「祝福」という言葉は、「命」にあふれている<sup>ようす</sup>様子を思わせます。天地創造の5日目と6日目に魚や鳥や動物や人間を神さまが造られた時、それらを祝福して「産めよ、増えよ、海の水に満ちよ、地の上に増えよ」と言っておられるからです。「聖別」することについては第5課でも学びましたが、神さまがその日をほかの日とはっきり区別すると言われたということです。

「第七の日」という時間は、大人でも子どもでも、男でも女でも、お金持ちでも貧乏な人にでも同じように与えられています。そして、わざわざどこかに行かないと「第七の日」が来なくなるわけではありません。どこにいても、何をしても「第七の日」はやってきます。全ての人にとって、命にあふれる日となるように、神さまがほかの日とはっきり区別して「第七の日」を特別な時間にしてくださったのです。

### 3. 出エジプト記における安息日 2月13日（月曜日）

出エジプト記20章8節から11節には、十戒第4条の安息日についての戒めが書かれています。この戒めは、私たちが安息日を心に留めて、聖別するように言っています。また、6日間は働くようにと言っています。また、7日目は仕事をしないように言っています。自分が仕事をしないだけではなくて、自分の家族や奴隷や動物や町の人たちにも仕事を休ませるように言っています。安息日をそのように聖別するわけは、神さまがこの世界を造ったときに第七の日に休まれたからだ、と言っています。このように出エジプト記20章の十戒第4条では、安息日の戒めは、この世界を造られた「創造主」である神さまを思い出させてくれます。

### 4. 申命記における安息日 2月14日（火曜日）

十戒は出エジプト記20章のほかに、申命記5章にも書かれています。第4条の安息日の戒めについて、申命記5章の十戒の方でも、奴隷たちにも同じように仕事を休ませなさいと言っています。ただ、その理由について、イスラエルがエジプトで奴隷だったのを、神さまが救い出してくださって、安息日に休むことができるようにしてくださったからだ、と言っています。このことは、罪の奴隷だった私たちを、イエスさまが救い出してくださって、安息日の祝福を与えてくださったことを思い出させてくれます。つまり安息日は、「贖い主」であるイエスさまを思い出す日でもあることを、申命記5章の安息日の戒めは教えてくれていると言えます。

### 5. イエスと安息日（その1） 2月15日（水曜日）

新約聖書の福音書の中には、イエスさまが病気の人たちをいやされた物語がたくさん書かれています。そしてそれらの物語を読むと、イエスさまのいやしのいくつかは、安息日に行われたことがわかります。ある人たちは、安息日にイエスさまが病気の人をいやされたということは、イエスさまは安息日に休まないで働いたということだから、安息日についての戒めは、もう守らなくてもよくなったという意味だ、と説明しようとしています。でも、マタイによる福音書12章1節～13節のいやしの物語を読むと、それは間違った説明だということがわかります。イエスさまが安息日に病気の人をいやされたわけは、別のところにありました。イエスさまがおられた時代のユダヤ人たちは、安息日の戒めを守ろうと思って、安息日にはこんなことはしてはいけない、といった決まりを、自分たちでたくさん作っていました。そのせいで、安息日が祝福の日ではなくて、いろんなことをしてはいけない決まりにしばられた、つまらない日になってしまっていたのです。イエスさまは、みんながそのような間違った安息日の守り方をやめて、祝福の日となるようにしたい、と思ったのです。だからイエスさまは、安息日の戒めを守らなくていい、と言っているのではなくて、むしろ、安息日をみんなの祝福の日として守るように言っているのです。

### 6. イエスと安息日（その2） 2月16日（木曜日）

イエスさまは金曜日に十字架で死なれたあと、お墓の中で安息日を過ごされました。そして日曜日の朝、復活してお墓から出て来られました。十字架で私たちの罪の身代わりとして死んでくださったので、私たちはイエスさまを「贖い主」といいます。イエスさまが罪のない御自分の命で、罪人である私たちの命を買い戻してくださったからです。その贖いのわざが成し遂げられた十字架の死のあと、イエスさまは安息日にお墓の中で休まれたのです。ちょうど、この世界を造る作業が完成した次の日である「第七の日」に休まれたのと同じように、贖いのわざが完成した次の日である「安息日」に、イエスさまは休まれたのです。

天地創造の時に、すばらしい命を造られたイエスさまは、創造主として安息日の主です。また、私たちが罪とその結果である死から救うために十字架で死んでくださったイエスさまは、贖い主として安息日の主です。あふれるばかりの愛のゆえに、最初に命を与えてくださり、死から命をとりもどしてくださったイエスさまこそが、安息日の主です。